スペイン語の構文〈tener ＋過去分詞〉の再検討

下　田　幸　男

要　旨

本論は〈tener ＋過去分詞〉構文の様々な特徴について総合的な分析を試みている。先行研究では迂言用法かどうかという統語的な観点からの分析が主だったが，本論は意味的，語用論的観点から〈tener ＋過去分詞〉構文を再分析し，コーパスを使って構文の現れる適切なコンテクストを提示する。最後に構文の通時的な変遷についても検討する。

キーワード：スペイン語，構文，tener，過去分詞，迂言法

1．はじめに

本稿はスペイン語の〈tener ＋過去分詞〉構文の総合的な特徴について分析を試みる。以下のように〈tener ＋過去分詞〉は tener の後に過去分詞を置き，さらにその過去分詞の目的語として名詞句（節）を取る。

（1）Jorge tiene ganado el corazón de los hinchas.
「ホルヘはファンのハートをつかんでいる。」
（2）¿Cuántas veces te lo tengo dicho?
「私はきみに何回それを言っているんだ？」

動詞 tener は本来「持つ」「保持する」「得る」のような意味があるが，この構文では文法化した助動詞として使われている。過去分詞は目的語の性・数に一致し，主語の性・数に一致することはない。以下の（3）では ganados（得る）は 46 títulos（男性・複数）に一致しており，(4) では hecha（作る）が su lista negra（女性・単数）に一致している。そのため，（4'）のように主語の el jefe（男性・単数）に合わせた hecho を使うと非文となる [1)]。

（3）El entrenador tiene <u>ganados</u> <u>46 títulos</u>.
「監督は<u>46 のタイトル</u>を<u>取っている</u>。」
（4）El jefe tiene <u>hecha</u> <u>su lista negra</u>.
「上司は<u>ブラックリスト</u>を<u>作っている</u>。」

（4’）*El jefe tiene hecho su lista negra.

この構文は文語表現だけでなく口語表現でも頻繁に読み聞きするが，入門書や大学のテキストなどではまったく扱われていない。少し上級の参考書になると簡単な説明があるが，文法の簡単な説明だけでその具体的な用法までは言及されていない。西和辞典でこの用法を確認すると，その多くが「～してある」という意味で，例文が2～3例示してあるのが一般的である。当然ではあるが，辞書だけから〈tener ＋過去分詞〉の用法の全体像を確認するのは不可能であり，「自ら使える構文」にするにはさらに総合的な分析が必要となる。

本論では，tener ＋過去分詞の総合的な用法について詳細に分析し，その輪郭を明確にすることが目的である。教育的な立場からも，文法的に正しく，より適切なコンテクストで自ら使用できるための手がかりを提示したい。

2. これまでの問題点

2.1. 迂言用法か否か

〈tener ＋過去分詞〉が迂言法か否かについてはYllera（1999）が詳しい。Yllera は〈tener ＋過去分詞〉の多くは迂言法には分類されないとし，以下のような文を非迂言法としている[2)]。

（5）Tiene escondido el libro en su habitación. (Yllera, 1999: 3433)
「彼は部屋に本を隠している。」
（6）Allí la tuvo encerrada un año. (Ibíd. : 3433)
「彼は彼女をあそこに一年間閉じ込めていた。」

（5），（6）では tener が意味的に動詞句の中核をなしており，過去分詞である escondido, encerrada がそれぞれ el libro, la の補語になっているという解釈である。本来の迂言法であれば，以下の（7）のように過去分詞を省略すると非文となるが，上記の（5），（6）では過去分詞を省略しても文法的であるだけでなく，主な文意も大きく変わらない。

（7）Hemos escondido el libro. → *Hemos el libro.
「私たちはその本を隠した。」
（5’）Tiene escondido el libro en su habitación. → Tiene el libro en su habitación.
「彼は部屋に本を隠している。」→「彼は部屋に本を持っている。」
（6’）Allí la tuvo encerrada un año. → Allí la tuvo un año.
「彼は彼女をあそこに一年間閉じ込めていた。」→「彼は彼女を一年間所有していた。」

一方で，以下の文は迂言法であると定義できる。

（8）Tengo pensado ir a tu casa mañana. (Torrego, 1988: 191)
「私は明日君の家に行こうと思っている。」
（9）Os tengo dicho que saludéis a los vecinos. (Ibíd. : 191)
「私は君たちに近所の人にあいさつするように言っておいた。」

これらの文は tener と過去分詞の結びつきが強く，一つの動詞句を形成している。そのため，それぞれ過去分詞の pensado と dicho を省略すると以下の（10），（11）のように非文になってしまう。

（10）*Tengo ir a tu casa mañana.
（11）*Tengo que saludéis a los vecinos.

このように，Yllera（1999）は文法的な基準から迂言法と非迂言法を区別しているが，（5），（6）で使われている過去分詞は単に名詞の補語として機能しているだけなのか？，という疑問が残る。Fernández de Castro（1999）では〈tener ＋過去分詞〉はそれぞれの語彙が自律的に機能している（tener が動詞句の主要部で過去分詞が目的語を修飾している補語である）合成的な解釈ではなく，迂言法的なまとまりを持っていると言及している。以下の文は，（12）が〈tener ＋過去分詞＋名詞〉の語順で（13）が〈tener ＋名詞＋過去分詞〉の語順である。

（12）El vecino nos tiene vigilada la casa siempre que íbamos de viaje.
(Fernández de Castro, 1999: 273)
「近所の人は私たちが旅行に行っていたときはいつも家を監視してくれていた。」
（13）*El vecino nos tiene la casa vigilada siempre que íbamos de viaje. (Ibíd. : 274)
「* 近所の人は私たちが旅行に行っていたときはいつも家を監視してくれている。」

（12）のように〈tener ＋過去分詞〉の語順になると完了した結果（perfectividad）を意味して文法的であるが，一方で，vigilada が la casa を修飾する補語の解釈となる（13）は完了した結果を表すことができずに非文となる。これは〈tener ＋過去分詞〉が意味的に迂言法的な一つのまとまりを成していることを示しいている。

文法的な基準で迂言法か否かを判断すると，上記のように〈tener ＋過去分詞〉が持っている意味的特徴の全体像を把握できなくなる。「迂言法」という言い方に問題あるのであれば，〈tener ＋過去分詞〉は〈tener ＋過去分詞＋名詞句（節）〉で形成される「構文」として扱うのが適切であろう。

2.2.〈haber ＋過去分詞〉との違いついて

〈haber ＋過去分詞〉はスペイン語では最も頻繁に使われる「完了」を表す用法である。英語の〈*have* ＋過去分詞〉に対応し，ほぼ機能（用法）も同じと考えてよいだろう。以下では〈haber ＋過去分詞〉と〈tener ＋過去分詞〉の違いについて，先行研究ではどのように扱っているかを簡単に紹介する。

両者の違いについて García González（1992）では，どちらとも完了（perfectivo）の意味はあるが，〈tener ＋過去分詞〉には行為の結果（resultativo）とその継続（acumulativo）が付加されるとしている。

（14）He escrito veinte folios.
「私はレポートを 20 枚書きました。」
（15）Tengo escritos veinte folios.
「私はレポートを 20 枚書いてあります。」

（15）には「書いた」という結果の継続が表されており，（14）にはそのような継続性が存在しない。

RAE (2009: 2218–2219) では〈tener ＋過去分詞〉〈haber ＋過去分詞〉ともにある時点までのプロセスを表すとしているが，前者には抽象的な意味での「所有」「保持」の意味，または話者のポジティブな評価が付加されるとしている。

（16）No había acabado la carrera.
「私は大学を卒業していなかった。」
（17）No tenía acabada la carrera.
「私は大学を卒業していないままだった。」

（17）には（16）にはない「大学を卒業していない状態」が続いていたというニュアンスが付加される。しかし，話者のポジティブな評価というのはこの文からは感じられない。

Yllera（1999）と橋本（2007）では，〈tener ＋過去分詞〉は「完了した結果に対する話者の心理的な強い働きかけ」を表し，〈haber ＋過去分詞〉にはそれがないとしている。

（18）Te lo <u>he dicho</u> mil veces. (Yllera, 1999: 3434)
「何度も君にそれを<u>言った</u>。」
（19）¡Te lo <u>tengo dicho</u>! (Ibíd. :3434)

「君にはそれを言ってあるでしょ！」

(19) には感嘆符以上の「話者の特別な関与」が感じられるが，(18) にはそれがないとしている。

以上の先行研究は〈haber ＋過去分詞〉との違いを際立たせている点で秀逸であり，そのほかにも示唆に富む提案がなされているのだが，用法や使用頻度，例文の抽出などの点で若干の問題点を抱えている。ここでは〈haber ＋過去分詞〉と〈tener ＋過去分詞〉の簡単な違いを理解するに留め，次節でより詳細に本構文の分析を試みる。

3. 構文＜ tener ＋過去分詞＞の再検討

3.1. 過去分詞の問題点

3.1.1. 過去分詞の特徴

〈tener ＋過去分詞〉の過去分詞にはどのような動詞が多く使われているのだろうか。〈haber ＋過去分詞〉は自動詞，他動詞，アスペクトなどの制限は一切なくほぼどんな動詞でも過去分詞にすることができる。一方で，〈tener ＋過去分詞〉はいくつかの使用の制限が存在する。はじめに，その使用の制限について数点あげておく。

まず，自動詞は使えない。〈tener ＋過去分詞〉は必ず過去分詞の目的語を取る。

(20) *Tengo vivido aquí tres años.
「私はここに 3 年住んでいる。」

西和辞典の多くが「～してある」と意味を記述しているように，構文で使われる動詞は行為が完了するものでなくてはいけない。そういった意味で完了アスペクトのない状態動詞（estados）は使えない。

(21) *Tengo creído que están equivocados. (RAE 2009: 2220)
「彼らが間違っていると私は思っている。」
(22) *Te tenemos esperado mucho tiempo. (Ibíd. :2220)
「私たちは君をずっと待っている。」

活動動詞（actividades）も，「活動が続きその活動には境界（delimitado, télico）がない」という特徴により，構文の過去分詞としては使えない。

(23) *Jorge tiene bebido el vino.

「ホルヘはワインを飲んである。」

（24）*Tengo comido pescado.

「私は魚を食べてある。」

では，どういった特徴を持った動詞がこの構文の過去分詞になれるであろうか。まずは実際にコーパスで採取した動詞を見てみよう。以下の表は Mark Davies のスペイン語コーパスから採取した 19 世紀，20 世紀でもっとも多く使われている過去分詞である（括弧は収集できた数）。この他にも数多くの過去分詞を収集できた[3]。

表 1

1. entendido（318） 理解する	2. puesto（191） 身に着ける，課す	3. preparado（122） 準備する	4. previsto（114） 予見する
5. hecho（108） する，作る	6. dicho（78） 言う	7. pensado（76） 考える	8. dispuesto（67） 備える
9. guardado（60） 守る，保管する	10. escrito（52） 書く	11. asignado（43） 割り当てる	12. ganado（40） 勝つ，得る
13. dado（40） 行う，与える	14. prohibido（34） 禁止する	15. declarado（30） 表明する	16. planeado（22） 計画する

これらの動詞を観察すると，ほとんどが達成動詞（realizaciones）であることがわかる（dicho「言う」に関しては後に言及する）[4]。達成動詞とは動作が完結した結果，その状態が継続可能な動詞のことである[5]。動詞の行為が完結し，その後に状態が継続できない到達動詞（logros）は目的語を取っても構文の過去分詞にはなりにくい。以下の文は過去分詞に encontrar（見つける）が使われており，完了した結果の状態が継続できないため非常に不自然な文となる。

（25）??María tiene encontrada la cartera.

「マリアは財布を見つけてある」

この過去分詞の特徴は先行研究で García González（1992）が指摘した「行為の結果とその継続」に当てはまるが，構文使用の全体像を把握するにはまだ不十分である。次節ではどのようなコンテクストで構文が使われるかを，例文を提示しながら検証する。

3.1.2. 当該構文と意味的に相性の良い動詞

ここからは当該構文が出現している実例を確認する。ここでもう一度これまでの〈tener ＋過去分詞〉構文の特徴を復習し，より深い理解につなげていきたい。前項でも述べたとおり，〈tener ＋過去分詞〉で使われる過去分詞の特徴は，①他動詞である，②状態動詞は使えない，

③活動動詞も使えない，④到達動詞は使いにくい，であった。

これらを踏まえて，本項では〈tener ＋過去分詞〉と意味的に相性の良い動詞を例示し，構文の「典型例」を示す。

〈tener ＋過去分詞〉は，上記の表 1 の動詞だけでなく，持続的に続けてきた行為が達成し，その結果状態が継続するような動詞とは非常に相性が良い。そのため，表 1 の 9 の guardado をはじめ「集積」「保持」などの動詞は使われやすい。

（26）Miguel tiene ahorrados unos miles de euros. (Manuel Carrera Díaz, 2012: 418)
「ミゲルは何千ユーロも貯金している。」

（27）¿Cuánta información tiene almacenada la humanidad?
(www.xatakaciencia.com, 11/05/2011)
「人類にはどれだけの情報が集積してあるのだろうか？」

（28）El fútbol, como la vida, siempre tiene guardada una sorpresa.
(La Nueva Provincia, 12/05/1997)
「サッカーには人生のようにつねに驚きが確保されている。」

RAE（2009）では,「合意」「協定」などの動詞も相性が良いとしている。ある過程を経て「合意」が完了し，その結果状態が継続しているニュアンスがある。

（29）Por si acaso, Uribe tenía reservada una habitación del hotel donde se alojaba el equipo durante el rodaje. (El País, 25/09/1996)
「万が一のため，ウリベは撮影中のスタッフが宿泊するホテルの部屋を予約しておいた。」

（30）Manchester United tiene cerrado a David Moyes como el sucesor de Alex Ferguson. (www.latercera.com, 08/05/2013)
「マン U はデビッド・モイーズをアレックス・ファーガソンの後継者として契約している。」

（31）La universidad tiene contratado desde hace ya seis años el servicio de limpieza con una empresa especializada. (La Vanguardia, 03/04/1995)
「大学はすでに 6 年前から特別な企業との清掃サービスの契約を結んでいる。」

さらに，tener の語彙的意味「持つ」から,「得る」「獲得する」「束縛する」などの動詞とも相性が良い。

（32）El Tour de Francia tiene ganado el prestigio en todo el mundo.

(El Mundo, 13/06/1994)

「ツールドフランスは世界中で名声を得ている。」

（33）La peor droga es la que te tiene atrapado para siempre. (La Época, 05/11/1997)

「最悪のドラッグは永遠に君を束縛している。」

（34）El Real Madrid tiene atado a Isco por 25 millones. (periodistadigital.com, 16/06/2013)

「レアル・マドリーはイスコを 2,500 万ユーロでものにしてある。」

そのほかに，表 1 でも確認できるように「予測」「計画」「準備」「表明」「思考」などの情報伝達を表す動詞が多く使われているが，その場合,「断固とした」「しっかりした」「揺るぎない」といったニュアンスがある。

（35）Mou aún no tiene tomada la decisión sobre su futuro.

(www.lainformacion.com, 03/05/2013)

「モウリーニョはまだ（明確に）去就についての決定を出していないでいる。」

（36）Tengo pensado no moverme de aquí durante las próximas vacaciones.

(Manuel Carrera Díaz, 2012: 418)

「私は次の休暇の間ここを（断固として）動かないつもりでいる。」

（37）El obispo de Lleida tiene declarado que la mujer puede ser sacerdote y hacerlo mejor que el hombre. (La Vanguardia, 22/03/1994)

「レリダの司祭は，女性も聖職者になることができ男性よりも優秀であると（強い意志を持って）表明している。」

以上をまとめると，〈tener ＋過去分詞〉と意味的に相性が良い動詞は，表 1 の動詞も含め，以下のように分類できる。

表 2

「集積」「保持」	guardado（保持する），ahorrado（貯金する），almacenado（集積する）
「合意」「協定」	reservado（予約する），cerrado（契約する），contratado（契約を結ぶ）
「獲得」「束縛」	ganado（得る）, atrapado（束縛する）, atado（ものにする）, asignado（割り当てる），puesto（課す）
「情報伝達」	tomada la desición（決定する），pensado（考える），declarado（表明する），previsto（予測する）, entendido（理解する）, escrito（書く）, planteado（計画する），decir（言う），prohibido（禁止する）

3.1.3. 到達動詞

表 1 で見られるように使用頻度の高い decir は（25）と同じように到達動詞であり，結果状

態の継続ができない。そのため，〈tener ＋過去分詞〉で使われる場合，（38）のように何度も繰り返して言っている場面で使われる。（39）のように反復がしにくいコンテクストでは不自然な文になる。

（38）Ya te tengo dicho que no fumes en el cuarto.
「部屋でタバコを吸わないでって言ってあるでしょ。」
（39）??Me tienen dicho que ayer estuvieron en casa. (Harre, 1991: 59)
「彼らは私に昨日家にいたと言ってある。」

そのほかにも vender（売る）のようにその結果状態が継続しにくい達成動詞でも，コンテクストさえ整えば〈tener ＋過去分詞〉で使うことができる。

（40）Copa Confederaciones tiene vendido el 71 por ciento de entradas.
(elinformantejalisco.com, 07/05/2013)
「コンフェデレーションズカップは 71％の入場券を売っている。」
（41）…uno de ellos ya lo tiene vendido a una televisora de Miami. (APRO, 02/02/1997)
「（映像制作会社）はすでにマイアミの放送局にそれらの一つを売ってある。」

この場合，商品がこれまでにいくつも売れ，その積み重ねが今に至っており，これからも売る予定である。しかし，以下のように，そのようなコンテクストがない場合，不自然な文となる。

（42）?Tengo vendido el coche.
「私は車を売ってあります。」

「売る」という結果状態を継続させるようなコンテクストがないと自然な文にはならない[6)]。

3.2. コンテクスト

これまでは，文のみの解釈で構文の特徴を述べてきた。ここでは，どのようなコンテクストで構文が頻繁に現れるかを分析する。

〈tener ＋過去分詞〉をネットやコーパスで検索すると，新聞の大見出しなどに頻繁に使われているのがわかる。インタビューなどの中で使われていることもあり，インタビュイーがコメントしたその部分をわざわざ取り出して記事の見出しにしているものも少なくない。さらに，その多くは，見出しの部分だけで〈tener ＋過去分詞〉が使われ，その後の小見出しや本

文では使われることがないケースも多い。特に，スポーツ関連の記事の見出しには読者を引き付けるために頻繁に〈tener ＋過去分詞〉が使われている。これは〈tener ＋過去分詞〉の「文意の強調」と無関係ではない。

次の文は実際のインタビュイーが言っていないコメントが記事の見出しとして使われた例である。

（43）Argentino Giménez tiene roto el ligamento cruzado de la rodilla izquierda.

(hoylosangeles.com, 03/04/2013)

「アルゼンチン人のヒメネスは左ひざ十字靭帯を断絶してしまっている。」

この選手の実際のコメントは以下の（44）であり，〈tener ＋過去分詞〉は使われていない（rotura は「断絶」を意味する名詞である）。

（44）Tengo rotura parcial o total del ligamento.

「私は靭帯の一部か全部が断絶しています。」

次の文も記事の大見出しになっていた文であるが，実際にナダル選手がコメントしたものではない。

（45）Nadal admite que ya tiene perdido el número uno del mundo ante Djokovic.

(emol.com, 08/05/2011)

「ナダルはすでにジョコビッチに対して世界一を失っていると認めている。」

実際に，ナダル選手がコメントしたのは次のようなシンプルなものであった。

（46）El número uno no peligra: el número uno está finiquitado.

「ナンバーワンが危ういのではない。ナンバーワンはすでに終わっている。」

このように，〈tener ＋過去分詞〉は記事の大見出しとして使うことで読者の注意を集め，よりインパクトのある印象を与える。

他にも，〈tener ＋過去分詞〉強調の文意を持っているコンテクストがある。以下の文は，はじめに creo（私は思う）を言って，その後 tengo entendido（理解している）に言い換えている。

（47）Resulta que al contrario del resto del mundo, que yo creo o tengo entendido que la gente más bien de izquierda usaban el pelo largo, pues en Cuba era al revés,…
(Tatuaje, 17/04/85, TVE 2)
「他の国とは逆なんです。左翼の人は，むしろ長い髪の毛をしていたと私は思う，いや，そう理解しているのですが，キューバでは逆なんです。」

（48）でも，はじめに creo（私は思う）と言い，その後 tengo entendido（理解している），最後に por lo que hemos leído（読んだところによると）と，徐々に確信性が高くなる言い方に換えている。

（48）Creo, tengo entendido, por lo que hemos leído, que intentáis, en esta rehabilitación, conservar un poco el sabor añejo. (Te espero en Madrid, Madrid, 30/01/91, TVE 1)
「私は，君たちがこの修復において，少し古めかしい味を維持しようとしていると思う，と理解しいている，いや，我々が読んだところではそうだ。」

Yllera（1999: 3434）では，tener entendido はすでに熟語化しており，creer（思う）とほぼ同義語であるとしているが，上記のような例文を見ると，どうやら creer よりも確信の度合いが強く，言い換えることで文意を強調しているのがわかる。

3.3. tener の時制

tener の時制をコーパスで確認すると，そのほとんどが現在時制か未来時制であり，過去時制の場合でもほぼ全て不完了過去（線過去）が使われる。まれに完了過去（点過去）が使われているが，少なくとも Mark Davies のコーパスでは 19 世紀，20 世紀の構文出現数 3584 件中，完了過去が使われたのは 8 件のみであった。完了を表す迂言法（haber+tenido）は 0 件であった。しかし，Harre（1991）では，繰り返しの文脈であれば haber+tenido も可能であるとしている。

（49）He tenido varias veces cantigado al niño. (Harre 1991: 85)
「私は何度もその男の子をこらしめていた。」

完了過去の場合でも，数は非常に少なかったが，繰り返しや継続の文脈であれば haber+tenido と同じように可能ではあるようだ。

（50）…tuvo encerrados muchos días a los hombres y mujeres del barrio en los cuarteles.

(Vargas Llosa, *A tía Julia y el escribidor,* 1996)

「彼は何日もその地域の男性たち女性たちを兵舎の中に閉じ込めていた。」

（51）Yo siempre tuve entendido que él la respetó en todo momento.

(Hernáez, Luis, *El destino, el barro y la coneja*, 1990)

「彼は彼女のことをずっと尊敬していることを私はつねに理解していた。」

しかし，完了過去はそもそも「繰り返し」や「継続行為」とはあまり相容れない時制とされている。出現数も非常に限られているため，教育的な立場から言えば〈tener ＋過去分詞〉における完了過去の使用は勧められない。

3.4. 通時的分析

〈tener ＋過去分詞〉構文は通時的にみて，どのような変遷があったのだろうか。Yllera (1980) によると，12 世紀の El Cid の作品に 1 例確認されており [7]，その後 13 世紀になると頻繁に現れようになった。tener はつなぎ動詞か語彙的意味である「もつ」，もしくは「維持する」「とどめる」のような意味で使われていた。14，15 世紀になると現在のような完了や結果などの意味を表すようになり，pensado（考える），pasmado（驚く）のような過去分詞も取るようになってきた。

そして特筆すべきは，この時代〈aver ＋過去分詞〉[8] と〈tener ＋過去分詞〉が競合し，かなりの頻度で〈tener ＋過去分詞〉が使われていたということである。一時は両構文とも完了を意味し，ほぼ同じ用法であった (Harre 1991: 96-107)。そのため，14 世紀から 16 世紀には現在では使われていない状態動詞である amado（愛する）や creído（思う）も使われていた。

（52）sy mucho la amades mas vos tyene amado. (Libro de buen amor 1343: 798)

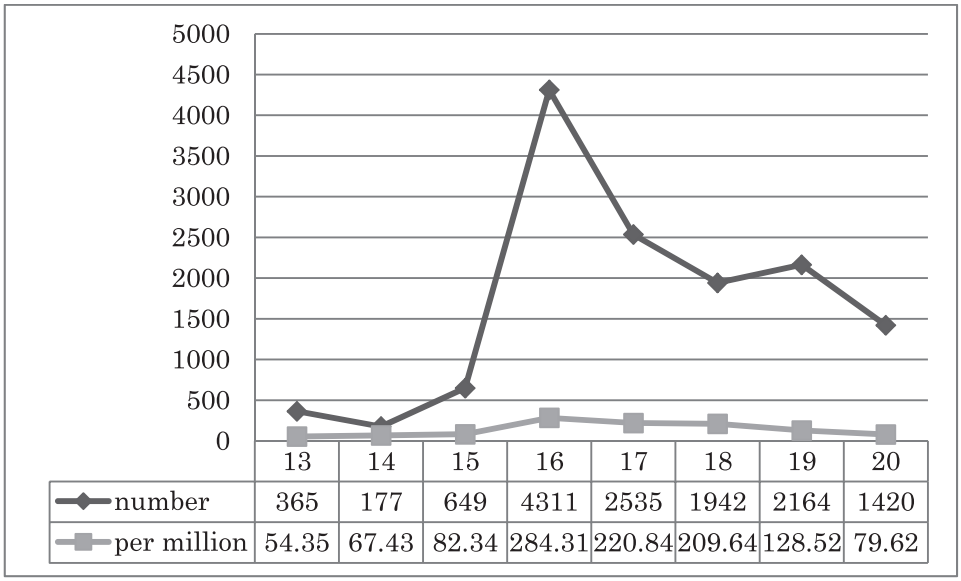
「もし君が彼女を深く愛しているのなら，彼女は君をもっと愛している。」

（53）…tenía creído que su señor no se iría sin él. (Don Quijote 1615: 89)

「彼は，彼なしに彼の主人が立ち去ってしまわないだろうと思っていた。」

（52）は過去から現在まで変わりなく愛していること意味し，過去から現在までの継続状況を表している。（53）は過去完了を表しており，どちらの用法も〈aver（haber）＋過去分詞〉と同じ用法である。そういった意味では，この時代,〈tener ＋過去分詞〉は文法化が進んでおり，現在のような文法的な制限はほとんど見られなかったようである。しかし，16 世紀以降，完了やある時点までの継続用法は〈aver（haber）＋過去分詞〉が圧倒的に優勢になり，現在では〈tener ＋過去分詞〉はこれまで見てきた用法に限定されている [9]。

以下のグラフ 1 は Mark Davies のスペイン語コーパスから採取した〈tener ＋過去分詞〉の構文の出現数とその割合である。出現数は 16 世紀が圧倒的に多く，13 世紀から 20 世紀の 800 年の間の全例文の約 40％を占めている。100 万語における出現割合も 16 世紀が最も多い（縦軸が数，横軸が世紀，◆が出現数，■が 100 万語における出現割合）。



	13	14	15	16	17	18	19	20
number	365	177	649	4311	2535	1942	2164	1420
per million	54.35	67.43	82.34	284.31	220.84	209.64	128.52	79.62

グラフ 1

実際に，16 世紀末から 17 世紀初旬に書かれたドン・キホーテを読むとこの構文の使用（完了用法も含め）が頻繁に出てきていることがわかる [10)]。

（54）...como si ya le tuvieran <u>muerto</u> delante.

(Don Quijote: Segunda parte. Capítulo LXXIIII (1 de 2))

「まるで彼らが彼（ドン・キホーテ）を目の前で<u>死なれてしまった</u>かのように」

（55）...ya tenía <u>comprados</u> de su propio dinero dos famosos perros para guardar el ganado.

(Don Quijote: Segunda parte. Capítulo LXXIIII (1 de 2))

「私はすでに家畜を守るために有名な犬を 2 匹自腹で<u>購入しておった</u>。」

グラフ 1 からもわかるように，コーパスで採取された構文自体の使用頻度は 16 世紀を頂点として確実に減ってきている。さらに現代のように用法の制限が強くなってくると，当然使われる過去分詞の種類も減ってきている。Yllera（1980）によると，16 世紀には現在では使われない状態動詞の creído（思う），sabido（知る），conocido（知る（体験として））などが使わ

れているとし，実際にコーパスで確認すると，16，17 世紀に限り数例の使用が確認できた。

（56）...pues tengo conocido vuestro mucho valer, quiero poner toda mi esperança en vos,...
(Traducción de Tirante el Blanco de Joanot Martorell, 1511: III 242)
「私はあなたの大きな勇気を知っている。私はあなたに私のすべての希望を託したい。」

（57）yo tengo sabido que hay más Santas que Poetas. (Vejamen 1622: 273)
「私は詩人よりも聖人のほうがより多くいることを知っている。」

しかし，この場合は完了などを表す現在の用法ではなく，現在時制とほぼ同じで状態などを表したようである（Hassen 1966: 233–234）。

4. まとめ

本論は現代スペイン語の〈tener ＋過去分詞〉の用法について詳細な分析を試みた。コーパスなどを用い様々な実例観察した結果，この構文の使用法や解釈の仕方についての輪郭が浮き彫りになった。

構文の意味としては，「行為の結果状態が継続する」という解釈になり，日本語の意味としては「～してある」「～している」が適切であろう。使われる過去分詞は tener が語彙的意味として持っている「持つ」「保持する」「得る」などと意味的に相性の良い動詞が使われており，動詞の種類としては主に達成動詞が使われている。例外的に decir のような到達動詞も使われるが，その場合，「反復」の解釈になる。tener の時制は現在，未来，不完了過去が主で，迂言法の完了（haber ＋過去分詞），完了過去（点過去）などはあまり使われない。構文が使われるコンテクストは，新聞の見出しなど，文意が強調される箇所などが多く，そういった意味で〈haber ＋過去分詞〉とは異なるコンテクストでの使用が多いように思われる。使用の通時的な変遷では，16 世紀を頂点として徐々にその使用数，割合も減ってきているが，新聞の見出しなど文意の強調が必要な場面での使用は依然として多い。

本論はスペイン語のヴァリエーションについてほとんど言及していない。インフォーマントチェックの地域幅を広げ，地域別の使用法や使用範囲などの詳細な分析が必要となってくるだろう。

注

1）ポルトガル語とガリシア語では過去分詞は主語の性と数に一致する。
2）本論での迂言法とは複数の動詞が一つの動詞として機能する動詞句のことを示している。

3）本論で採取された用例に関して，ネット上から採取したものは信頼のおける新聞記事からのものであり，その場合，必ず日付を付しておいた。その他はRAE（王立アカデミー）の現代語コーパスCREA（http://corpus.rae.es/creanet.html）　とMark Davies（http://www.corpusdelespanol.org/x.asp）のスペイン語コーパスから採取した。コーパスの最終採取日は2013年9月20日である。

4）Yllera (1999) では，〈tener ＋過去分詞〉の過去分詞と〈estar ＋過去分詞〉の過去分詞には対応関係がある（どちらも達成動詞が多く使われる）としているが，tener dicho（言ってある）のように文法化が進んだものは対応関係にないとして，Harre（1991: 168-171）の例を出している。

（i）Me tienen contadas muchas historias. → *Muchas historias están contadas.
「彼らは私に多くの話をしてくれている。」

（ii）Tengo recorridos muchos kilómetros. → *Muchos kilómetros están recorridos.
「私は何キロも歩き回った。」

5）達成動詞の定義やeatar ＋過去分詞については高垣（2005）を参考にした。

6）メキシコ人3名，スペイン人5名にインフォーマントチェックをした。ほぼ全員が少し不自然としたが，スペイン人（マドリード，グラナダ，セビージャ）の方が比較的許容度が高く，メキシコ人は3名とも非文とした。

7）Espuelas tienen calçadas los malos traydores. (Poema de Mio Cid, 2722)
「その裏切り者たちは騎士に叙されている。」

8）完了の迂言法を表す〈aver ＋過去分詞〉は18世紀頃まで使われており，その後〈haber ＋過去分詞〉が主に使われるようになっていった。現代スペイン語でのaverの使用はない。

9）〈haber (aver) ＋過去分詞〉の出現数をMark Daviesのコーパスで確認すると，15世紀は総数2305件であったが，16世紀以降はコンスタントに5万件以上の出現数になっている（コーパスでは1,000種類までの組み合わせしか表示されないため，16世紀以降の出現の総数はさらに多い）。

10）ドン・キホーテの時代にはmuerto（死ぬ）のような現在では非文になるような自動詞も使われており，過去分詞の多様性の一環をうかがうことができる。

Referencias

Carrera Díaz, Manuel (2012) *Grammatica epagnola* (2 edizione), Roma, Laterza.

Fernández de Castro, Félix (1999) *Las perífrasis verbales e el español actual*, Madrid, Gredos.

García Fernández, Luis (2006) *Diccionario de perífrasis verbales*, Madrid, Gredos.

García González, Javier (1992) *Perífrasis verbales*, Sociedad General Española de Librería, S. A.

Goméz Torrego, Leonardo (1988) *Perífrasis verbales. Sintaxis, semántica y estilística*, Madrid, Arco/Libros.

Hanssen, Federico (1966) *Gramática histórica de la lengua castellana*, París, Hispano -americanos.

Harre Catherine E. (1991) *Tener + past participle: a case-study in linguistic description*, London, Routledge.

Morera, Marcial (1991) *Diccionario crítico de las perífrasis verbales del español*, Puerto del Rosario, Servicio de Publicaciones del Excmo. Cabildo Insular de Fuerteventura.

Real Academia Española (RAE) (2009) *Nueva gramática de la lengua española* Tomo 2, Madrid, Espasa.

Yllera, Alicia (1999) “Las perífrasis verbales de gerundio y participio”, en *Gramática descriptiva de la lengua española*, Vol. 2, pp. 3424-3439, Madrid, Espasa Calpe.

Yllera, Alicia (1980) *Sintaxis histórica del verbo español: las perífrasis medievales*, Universidad de Zaragoza.

橋本和美（2007）「イスパニア語の迂言法―tener ＋過去分詞―に関する予備調査報告」，『天理大学学報』58（2），pp. 29-44.

高垣敏博（2005）「〈estar ＋過去分詞〉構文（1）」，『スペイン語学研究』第20号，pp. 105–121.

Reanalysis of Spanish construction “tener + past participle”

Yukio SHIMODA

Abstract

This paper attempts to analyze various aspects of the characteristics of “tener + past participle”. In the prior studies it has been analyzed in terms of the periphrastic usage. However, we would miss out on important features of this construction from the syntactic point of view. Therefore, we collected a variety of examples using corpora such as RAE and Mark Davies, and we will show the appropriate context in which “tener + past participle” occurs. In the final chapter we will elaborate about the historical changes of this construction.

Keywors: Spanish, tener, construction, past participle, periphrasis